



母の日に『ありがとうカード』配布
—教区青年会と学生会—



第537号
発行所
天理教北海道教務支庁
札幌市中央区南8条西11丁目
電話 011(561)-1148
FAX 011(561)-1190
E-mail: kyokuh-h@vega.ocn.ne.jp
印刷
三浦印刷株式会社

教区長先生

お帰りなさい！

この5月2日、教区支部長会議の席に、半年ぶりに西垣教区長が元気な姿で登壇した。囃らずも頂いた身上の御守護を、喜び一杯に語って、万雷の拍手を受けた。支部長会議には、車イスでエレベーターを利用したものの、杖を使ってしつかり歩いて出席。病気の内容や、リハビリの日々についても挨拶で触れた。

「血の塊が脳に行けば脳梗塞だが、私の場合は脊髄梗塞との診断で、旭川医大に10月19日に搬送されました。ヘソから下に力が入らず、病院の先生の話では、このまま一生、半身が不自由かもしれないという事でしたが、点滴をし、リハビリをして、膝が動く、足首が曲がる、右足が上がると、一つひとつ動かせて頂けるようになりました。旭川リハビリ病院に移ってから本格的に一日3時間くらいリハビリに専念してまいりました。日頃、かしのかりものの教理を、いかにも分かっているかのようにお話をしていました。が神様から、しつかり分かっているかとお叱りを受けたなと思

いました。「神経というものは何万本あるか知りませんが、一本一本繋がって動き出して、これからも御用の上にしつかりつとめて参りたいと思います。まだまだ、おぼつかない姿に見えるかもしれませんが、皆様にはより一層お導き頂きますよう、どうぞ宜しくお願い致します。」と何度も「お陰様で」という言葉と共に、感謝の弁を述べられました。決算会議が終了した後には、教務支庁内の人や、書記、布教の家寮生などが集まって、改めて「教区長先生、お帰りなさい！」と申し上げると、いつも気さくな笑顔が、一層ほころんで、皆と共に喜び合った。



天理教を介绍します  **天理教基礎講座** TENRIKYO BASICS COURSE どなたでもお聞きいただけます

《北海道会場の御案内》

- 6月3日(土) 13時30分 教務支庁会場 (山田常則 本部講師)
- 6月18日(日) 13時30分 千恵広支部会場 (天理教漁分教会 千歳市長都38-4)
- 7月16日(日) 13時30分 宗谷支部会場 (道の駅「わっかない」キタカラ2F 稚内市中央3-6-1)

天理教基礎講座 検索  天理教基礎講座 北海道会場 Facebookページ <https://www.facebook.com/kisokouza.h>

北海道教区のホームページ <<http://tenrikyohk.wixsite.com/tenrikyo-hk>> 教区報がご覧頂けます。

晴天の恵みと
健康に感謝!

【全教一斉
ひのきしんデー総括】

▼晴天の御守護の中

まだ春浅い4月29日、前日までの天気予報では、全道的に雨模様とのこと。ところが明けて当日、雲間からお日様が出て晴天となった地域が多く、総じてそれが例年並みの参加者数にもつながったようだ。

広い支部内を組ごとに活動している十勝支部では、公園や公共施設、墓地などで実施。集計では414名が参加。函館も恒例の五稜郭公園に254名。空知支部での一番の人は滝の川運動公園で171名。旭川支部は一か所集中で常磐公園に161名となった。

▼それぞれ独自の活動も

近年、温暖化ならぬ寒冷化?という状況に備えて、屋内の施設でのひのきしんを計画する支部や組も増えているが、一方で、施設内に多人数が入り出すと、感染症の恐れがあるというので、施設としてありがたい事であるが、半面避けたいという動きもある。その中、小樽

支部では、後述のように献血車を呼んでひのきしんに組み入れたり、俱知安支部のように、ひのきしん後にパーベキューをして親交を深める所もあった。

また札幌中南支部では、教務支庁に集合した86名が、付近の街頭でゴミ拾いをして明るい街づくりのひのきしんをした。殊に今年少年会員が20名と多く、連休で静かな通りに、賑わしく歓声が響くことになった。



【札幌中南支部は教務支庁で】

小樽支部で
献血ひのきしんも

小樽支部(高橋義清支部長)では「献血は大きなおたすけ」との認識から、ひのきしんデー当日に献血車を依頼し献血ひのきしんを実施した。

支部では2か月ほど前からポ

スターやチラシで参加を呼びかけ、当日までに60名ほどの参加者を確保するため、福祉部・布教部・青年会・学生担当委員会などが動員に奔走。当日は63名が受付をし、内400ml献血を37名、200ml献血を4名が行った。

近年、若者の献血離れが進んでいるが、この日ははじめて献血をするという高校生も挑戦。「自分も人だすけができた」という献血後の晴れやかな顔が印象的だった。

尚、献血活動は、ひのきしんデー会場で実施した後、午後からは献血車を移動し、天理教館でも実施され、札幌中南支部から4名、余市支部からも1名が参加してくださった。



「真実の道」

札幌中南支部副支部長

奥山 覚

私達夫婦が預らせていただいている教会の月次祭には、いろいろな方が参拝してくれます。他系統の方や所属の違う方であつたり、でもその殆どが教会が近くに無く、四国や大阪あたりという具合です。又道内であつても、道北や道東など、自教会に参拝したくてもなかなか行けないようです。

私達の教会を通して道につながっていただいていと思えば、この教会の存在価値があるのかなと思わせていただいております。

最近参拝に來られるようになったMさんは、昨年私が教養掛をつとめた時の修養科生で、身上思いを通して修養科を志願され、幼い子連れでの3ヶ月間は、傍目で見るともご苦労の連続であつたように思います。その中、身上回復を信じ日々を通っている時の出会、いでした。Mさんの身上たすかりを願ひ、か

ろろだいでのおおさづけの取次、また、夜の修練前のおおさづけの取次は元より、教養掛や詰所の御用の間をぬって、日に2度3度かん

ろだいでのお願ひづとめ、又、時間を見つけての回廊掃除ひのきしんと、1か月間はMさんの身上たすかりを願つての日々でした。また、教会へ帰つても毎日のお願ひづとめを通してMさんの身上たすかりを願ひ続けました。この3月の月次祭に、Mさんが突然参拝に來られ、その後病状が悪く、心身ともに落ち込んでおられました。早速おさづけを取り次ぎ月次祭をつとめて

いただきました。翌日Mさんは、母親と幼い子を連れてお礼参拝に來られました。その時の顔を見ると前日は打つて変わったの爽やかな笑顔です。私は、Mさんはもう大丈夫、教祖に愛されているとの確信を得て内心ほっとしました。「ありがとうございますございます親神様・教祖」

「しゃやハせを

よきよふにとてじうぶんに
みについてくる
これをたのしめ

ある人が「私は一生懸命信仰をしてきたのに芽が出ないなあ」と言った。これには二つの問題がある。まず一生懸命であるが、私達はおおむね自分自身の判断で言っているにすぎない。それどころか、自分の思いに甘えているのである。やはり一生懸命つとめているとは、神様から認められるものでなければならぬ。そして神様が認める一生懸命は、多くの人が「なるほどの人だ」と認めているものであろう、と私は思っている。

もう一つ芽が出るという言葉だが、言っている人は自分の思い通りにいかないと申しているのだと思う。しかしこれは間違っている。芽が出るとは、この世の真実に根ざした人生を与えられる事である。自分の都合よく得をしたために後に不幸な人生に陥る事もあり、反対に損をしたり、思い通りにならなかったために人生を救われた人もあるのだ。要は心の徳が運命を左右する。私達はやはり謙虚に自分を掘りさげる心が大切だと思う。

私達は日々常に、良き心と悪しき心をつかって生活して

る。つまり良き心の種をまき、悪しき心の種をまいて暮らしているのである。その内良き種は少なく、そのほとんどは悪き種のようにある。これは自我を与えられた人間であるゆえ致し方ない事である。しかしこれを放置すれば、人は徳が切れて喜べな

ところがある。それは、人間は良き種をまいた事はいつまでも覚えていて、反対に悪しき種をさんざんまき散らしても忘れてしまう勝手なところがあるのである。だから「自分は一生懸命やってきた」と言った人程、過去の多く積んだほこり心を忘れた人の場合もある。

例えば、原点があり右が良き種をまいた結果のプラスとしよう。すると左は悪しき種をまいた結果のマイナスである。マイナスが多ければ少々の良い種をまいても原点までも行けない。そしてこの道しか心の徳を頂く道はないのである。このことを通り返しの道という。プラスの道を目指して歩いていくのである。しかし神様は努力する姿の真実を見てひいき目に御守護下さっているのである。

私は自分の通ってきた人生を振り返り見てマイナスが多く、誠実の足りないところを神様に大目に見て頂いて感謝の念でいっぱいである。これからも唯ひたすら神様に認めて頂けるよう努力させて頂くだけである。

『教理随想 十六』 「ほこりを払う道」

木岡 昭

い人生に陥る。

そこで神様は悪しき心づかいを「ほこり」にたとえて教えられ、ほこりは払えば落ちるのだから払う方に努力してほしいと仰せである。そしてその心のほこりを払う道はひたすらに良き種をまく事だと教えられた。

雅楽講習会開催



北海道教区総務部（高橋政嗣部長）は、5月3日と4日の日程で、教務支庁を会場に雅楽講習会を開催した。

幅広い年齢層の演奏者育成を目指して、ここ数年続けて5月の連休中に開催。小中学生2名、高校生1名を含む合計19名が参加、初心者、初級、中級コースに分かれ、熱心に練習に励んだ。

講師は、教内上級講師8名。CDなどを聞いて独習するのとは違い、講師から直に教えて頂き、その場で癖を修正し疑問を解決できるので、雅楽講習会は貴重な機会である。大いに活用して頂きたいと願っている。

(古川記)

特色あった地方会場

基礎講座北海道会場は、5月7日に函館支部、21日に札幌白豊支部を会場に同講座を開催、それぞれ16名、87名の受講があった。

函館会場となった「地域交流まちづくりセンター」は、大正12年に建てられた近世建築物で、観光都市「函館」のシンボルの存在。現在は地域のコミュニティケーションやまちづくり活動をサポートするために利用され、同講座のコンセプトにとってもマッチした会場であった。

一方、札幌白豊会場となった北栄分教会は、支部の様々な行事の会場として馴染みある教会で、多くの方がご受講下さった。教えを基礎から学んでみたい、おぢばがえりを勧めたい方にピッタリの講座ですので、是非に在りがけの上にもご活用頂ければと思います。



学生会・新入生歓迎会 青年会・母の日カード配布

5月13～14日、教務支庁を会場に学生会の新入生歓迎会が催された。(参加者30名)

今期のテーマ「知る学生会」を元におつとめを知るといふ事で、鳴物練習をしました。初めて鳴物に触れた参加者もいましたが、意欲的に取り組み、最後はよろづよ八首をつとめさせて頂きました。

また、翌14日は母の日であったので、青年会が大通り付近で母の日カードを配布する活動に

参加。当日は風も強く、人通りも少なかったが、丁寧にカードの説明をして渡すと、ほとんどの人が喜んで受け取ってくれて、気がつくとう意していた五百枚のカードの内、三百枚を配っており、青年会、学生会ともに喜べる活動となった。

けいじばん

6時から8時まで行います。※雅楽練習会も併行して開催しています。(三布連)

◎毎月26日に本部月次祭遙拝式をおこなっております。どうぞご参拝下さい。

計報

- ・西本 信一様 4月20日出直 (96歳)
- ・石狩分教会前会長 (札幌北西支部)
- ・高橋美由子様 4月24日出直 (84歳)
- ・色内分教会長配偶者 (小樽支部)
- ・森 妙子様 4月26日出直 (95歳)
- ・余市港分教会前会長 (余市支部)
- ・岡村 隆雄様 4月26日出直 (64歳)
- ・仁旭分教会会長 (天塩支部)

…少年会よりお知らせ…

◎少年ひのきしん隊隊員大募集!!

《今年もわかぎの熱い夏がやって来た!》

日程 平成29年7月30日(日)～8月6日(日)
 募集人員 男子 35名 女子 35名
 参加費用 46,000円 ※片道のみは半額
 参加資格 支部育成会長の推薦する、合宿生活可能な中学生
 申し込み 別紙申し込み用紙に必要事項記入の上、支部育成委員長を通じ、教区少ひ隊担当者へ
 締め切り 6月30日 (定員に達し次第締め切ります)
 (7月以降の取り消しには、キャンセル料がかかります)

◎少年会実技勉強会

《今年の夏に欠かせない!!》

少年会活動に携わるスタッフのみなさんの熱い要望をいただき、久しぶりに「実技勉強会」を開催します。バスの中や、室内・室外いろいろな場所で使えるゲームを中心に1泊2日で開催します。これであなたもゲームマスターに。

日時 6月29日～30日 9時半受付
 参加対象 支部委員長がみとめるもの
 参加費 2000円
 ※申し込み用紙に必要事項を記入し、6月2日までにFAXにてお申込みください

【お問い合わせ】 080-6073-9249 (久米田携帯)
 0134-23-2620 (久米田FAX)
 011-561-1190 (教務支庁FAX)

旭川支部で総会

去る4月30日、旭川支部(藤崎実支部長)では北愛分教会を会場に本年の総会を開催。108名が参加して、今年も様々な活動を通して、陽気ぐらしを実践しようと誓い合った。

講話は、宗谷支部長である男能富分教会長、五十嵐仁先生で、ウガンダというアフリカのキリスト教世界で、もがきながらおたすけをして一人の用木を生み出し、信仰拠点を築いてきた体験談は、多くの人の胸を打つ内容であった。直会では舞踊やカラオケ、お絵かきクイズ、抽選会もあって盛り上がった。

北海道教務支庁日誌抄

(4月20日～5月19日)

| | | |
|----|--------|-------------------------|
| 4月 | 22日 | 青年会 |
| | | 支部委員長会議 |
| | 23日 | 教区合唱団練習日 |
| | 26日 | 本部月次祭遙拝式 |
| | 28日 | 図書修理会 |
| 5月 | 1日 | たすけ推進会議 |
| | | 支部布教部長研修会 |
| | 2日 | 支部長会議 |
| | | 決算会議 |
| | 3～4日 | 雅楽講習会 |
| | 7日 | 基礎講座 函館会場 講師 藤田 文雄先生 |
| | 13～14日 | 学生会新入生歓迎会 |
| | 19日 | 教区報編集会議 |

国会で「災救隊」が話題に

4月21日のNHKテレビ中継、参議院の東日本大震災災害復興特別委員会という席で、茨城県選出の民進党、藤田議員が『天理教災害救援ひのきしん隊』の存在と活動について、政府に答弁を求め、有益な団体として認め、日赤に次ぐ団体として、災害復興活動に今後とも協力してもらいたい、との見解を引き出した。これまで災害現場

で青いヘルメットが活躍してきたことは、周知の事ながら、「それは宗教団体だろう」という当日のヤジにも現れたように、新聞記事やテレビ映像でも頑なに取り上げられなかった。それに対して藤田議員は「信仰というバックボーンがあるからこそ、地道な活動ができるんだ」と胸のすくような発言をしていった。それから日を経たずして、政府関係者がおちばを訪れて、災救隊本部を尋ねたとの事である。